

# 令和2年度 学校評価最終報告（今年度の取組と次年度に向けて）

## 【重点目標 1】

**自立活動を中心に  
据えた授業づくり**

新学習指導要領に対応した教育課程を実践、検討し、個々の特性、生活年齢に応じた授業の充実を図る。

- ・ 研修を有効活用して自立活動を学び、時間における指導内容の充実を図る。
- ・ 新学習指導要領に対応した教育課程を編成し、実践、検討を重ねる。
- ・ 自らの部のみならず多くの授業を参観し、12年間を見通し、特性、年齢に合わせた授業を創造する。

担当	具体的方策	今年度の取組と次年度に向けて
小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の中心課題を明らかにし、「自立活動の時間の指導」を実践し学習内容の検討と指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度末に立案した中心的課題と重点目標を、各学年で検討し、時間における指導と教育活動全体の指導を関連づけることを意識して取り組んだ。グループ編制については、個々の中心的課題を見据え、効果的に指導できる編制、指導体制を整えていった。</li> <li>・ 各教員が専門性を高めるため、目標を決め、研修を進めた。多くの教員は、自立活動に関する指導法や教材づくりに取り組んだ。アプローチの方法は様々であるが、児童の変容を丁寧に観察し、自立活動の視点で子どもを見る目を養うことができた。個々の実践が、部全体の指導力の底上げにつながったと考える。</li> <li>・ 今年度の実践を、次年度の担当者が引き継ぎ、成果を積み上げていくことが課題である。</li> </ul>
中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立活動の学習内容の検討と指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年会や自立活動検討会などを通して、学年の教員間で指導のねらいの共通理解や授業改善をしながら授業づくりを進めた。</li> <li>・ 中学部教育課程検討会において、各学年の実施状況や課題について情報交換を行った。また、部会で自立活動の授業の様子を動画で見ることで、中学部全体で共有した。</li> <li>・ 教員向けに実施したアンケート結果をもとに、今後の課題について共有していく。</li> <li>・ 次年度に向けて自立活動の校時を見直し、充実した指導ができるようにしていく。</li> </ul>

<p>高等部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全体を通して自立活動の目標を押さえた指導を行う。</li> <li>・BC 類型の自立活動について、効果的な指導方法と学習内容の検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の時間における指導を「マイチャレ」とネーミングし、中心的な課題でのグループ編制で、実践を行った。</li> <li>・年度末に実践の成果や課題を整理し、次年度に向けて備える。</li> </ul>
<p>教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務関係書類に関してできる限り遺漏や遅延なく業務を進められるようにする。</li> <li>・新しい学習指導要領改訂に伴う教育課程や各種様式の改善を図る。</li> <li>・教科会を通して、授業力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様式の変更や長期の休校に伴う、様々な課題や不具合があったが、担当者が速やかに対処し、大きな遺漏や遅延は見られなかった。次年度に向けて、明確となった課題について様式の変更や業務の進行方法について見直しを進めた。</li> <li>・各部署で実施する教育課程検討会を軸に、各部署の課題解決策を検討し全教員と共有を図っている。課題の解決や新しい学習指導要領に対応するため、各種様式の見直しを進めた。</li> <li>・特に難しいとされる学習観点「思考・判断・表現」に重点を置き、授業実践を進めた。教科によっては授業公開をしたり、授業の動画をもとにディスカッションを進めたりして授業力の向上に努めることができた。各教科の取組についての共有や、領域についての取組が今後の課題である。</li> </ul>
<p>研修部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部を越えた自由な授業参観を通して、自らの部のみならず多くの授業を参観する雰囲気をつくったり、「みんなで三好特別支援学校の子どもを育てる」意識を高めたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他部署の授業の様子や子どもを知ったり、気軽に授業を見合ったりし、意見交換できる雰囲気づくりをするために教務部と連携して、「部を越えた自由な授業参観」ができる期間を年間2回設定した。期間中は、職員室に宣伝の紙を掲示して授業の参観を促す工夫をした。授業参観した教員は全体の30～40%であったが、アンケートには、よい機会だ、今後も続けてほしいなどの意見が多く挙がっている。今後は、設定期間や参観方法を見直し、宣伝の工夫をしていきたい。</li> </ul>

自立活動部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の特性に応じた具体的な支援につながる研修会や情報交換を行い、専門性の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択研修会では外部専門家による研修を実施した。実施に当たっては、多人数が密になることを避けるため、教育工学部と連携して2会場に分けて行った。研修後のアンケートの結果は、概ね好評であった。教員のニーズを踏まえ、次年度も教員の専門性の向上につながる研修会の計画を検討していきたい。</li> <li>・「自立活動だより」では、「自立活動とは」をテーマに学習指導要領を中心に意義や目標、内容などを掲載した。また、新着教材の情報や使用例についての広報紙を作成して回覧し、教材についての具体的な情報提供を行った。</li> <li>・「自立活動相談」には数件の相談があり、校内の専門性の高い教員の協力を得て相談会を行った。相談を行うことで児童生徒の理解の助けとなり、指導してもらったことを実践したことで児童生徒の変容も見られた。</li> </ul>
図書資料部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新着図書の紹介、定期購読図書や外部からの資料の情報を発信していく。</li> <li>・図書の利用しやすい環境を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期購読図書の特集内容など、電子掲示板で情報提供をした。</li> <li>・図書の配架を一部変更し、大型絵本等を縦に収納することで、利用しやすくなった。</li> </ul>
施設内教育(病院)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の実態を的確に把握し、授業実践していく上での課題を抽出しながら、教員間の共通理解に努める。</li> <li>・特性、年齢に合わせた個別課題を実践し、時間における指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の病状の変容を共通理解しながら授業を実践した。体の状態に合わせた教材・教具の準備、学習内容の改善をしながら小集団での授業内容の工夫が必要である。</li> <li>・身体の動きを重視した学習に取り組み、体を通したコミュニケーションが確立してきている。今後は体の弛緩を中心に、継続した指導を進めるとともに、生活が豊かになる学習を充実させていきたい。</li> </ul>

## 【重点目標 2】

### 将来像につながる キャリア教育

一人一人に合った将来像を思い描き、それぞれの自立に向けた必要な力を各部で育むとともに、関係機関との円滑な連携に努める。

- ・一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育む。
- ・関係機関との円滑な連携に努め、一人一人に合ったよりよい生活や進路実現を図る。
- ・子どもたちの将来像が具体的に思い描けるよう、事業所見学や講話を通してキャリア教育についての理解を深める。

担当	具体的方策	今年度の取組と次年度に向けて
小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア発達の視点で自立活動を捉え、部間のつながりを意識した取組を目指し、児童の将来を見据えた指導ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月に「保護者研修会」として、進路に関する勉強会を実施した。中学部や高等部での学習の様子について、動画及びプレゼンテーションで紹介した。「様子が分かって安心した」「我が子に取り組めるのか心配」など、感想は様々であったが、保護者が近い将来の見通しをもつための情報は伝えることができた。一方で「実態別の様子が見られるとよかった」といった、より詳しい情報提供を望む声も聞かれた。次年度以降、全体の保護者をカバーする内容だけでなく、テーマを絞ったり、焦点化したりするなどして、参加者が限定的であっても、ピンポイントで必要な情報を届ける機会を設定できるとよい。</li> </ul>
中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が進路に関する知識を深め、生徒の将来を見据えた指導ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導主事からの情報提供や進路情報連絡会の内容を学年回覧することで、進路に関するスキルアップを目指した。特に、実習先の担当者の意見や卒業生の保護者の進路に関する生の声は、心に響くものがあり、中学部段階のキャリア教育について考えるよい契機となった。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で、事業所に出向いてのチャレンジ体験は中止となったが、校内で新たな取組を行った。成果と課題を検証し、次年度に生かしていく。</li> <li>・作業種目の見直しを進めた。引き続き、新作業種目の検討や試行を計画的に進めていく。</li> </ul>
高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の生活を見据えた指導・支援の実践を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会を中心に、進路指導主事による勉強会を実施した。事業所見学は、夏季休業が短縮されたこともあり、実施できなかった。</li> <li>・次年度から2年生で産業現場等における実習を行うことを決定した。そのことを加味しつつ、適切な進路決定までの流れや指導・支援方法の改善を次年度、図っていく。</li> </ul>
進路指導部	<p>&lt;小学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部段階におけるキャリア発達課題について考えることができる勉強会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導主事が本校の進路指導についての概要を映像を交えて講義した。卒業後の写真や具体事例があり、教員にも伝わりやすかった。児童の進路について見識を深めるため、次年度は、教員を対象とした施設見学を実施していきたい。</li> </ul>

	<p>&lt; 中学部 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に向けて、学年ごとに進路に関する情報を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から中学部2年生の進路情報連絡会では、卒業生の保護者をお招きし、進路決定までの過程を講演していただいた。保護者からとても好評であったため、次年度も計画していきたい。</li> </ul>
	<p>&lt; 高等部 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業現場等における実習の実施時期の検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者の進路に対する意識を高めるため、生徒の実態を把握するためにも早期からの実習を行う要望が高い。来年度から高等部2年生全員が1、2月から産業現場等における実習を実施できるように進めた結果、多くの企業、障害福祉サービス事業所から、高等部2年生の実習を受け入れてもらえることを確認できた。</li> </ul>
保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が自主的に健康生活を送ることができる資質や能力の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、新型コロナウイルス感染症に伴う対応に重点を置いてきた。家庭に健康チェックを依頼したり保健だよりの臨時号を発行したりするなど、様々な対策を働きかけた。児童生徒と職員にも検温や手洗い、消毒などの対策を進めた結果、定着してきた。また、学習場面や登下校、給食場面でも三密を避けたり、マスク着用を推進したりして感染症対策と新しい生活様式にも対応するようしてきた。年間を通して、感染リスクの回避やその対策への意識を高めることができた。次年度も感染症への対策を継続していく。</li> </ul>
自立活動部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の指導の充実を図り、家庭と学校が連携して児童生徒を支援していくための一助となるような情報提供を行う。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※自立活動の時間における指導</p> <p>これまで学校生活全体の中で機会をとらえて取り組んできたが、時間割の中に組み込んで、他の教科や領域と同様に明確に指導時間を設けた。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の時間における指導（※）が始まったのを契機として、保護者向けの「自立活動だよりの」を年3回発行した。自立活動の意義や6区分について家庭でも取り組みやすい内容例を紹介しながら説明するようになった。保護者からは「家でも実践していきたい」「子どものことを理解するのに役立った」との感想をいただいた。次年度は自立活動の基本事項に加えて家庭でも実践できるような内容をより具体的に紹介していきたい。</li> </ul>
図書資料部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期購読図書や資料の特集内容を活用し情報提供をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部と連携し、専門雑誌「手をつなぐ」の内容だけでなく、関連する新しい情報を加えたりコメントを入れたりして紙面で定期的に回覧した。</li> </ul>

【重点目標 3】

内外の特別支援  
教育力の育成

高い専門性を身に付け、校内の支援体制を強化すると共に、地域の特別支援教育力の向上を目指し、協働体制をつくる。

- ・ 自己研修に努め、さらなる専門性の向上を図る。
- ・ 各部、各校務分掌が協働し、校内支援体制の充実を図るとともに、外部関係機関とも連携した支援会議を積極的に行う。
- ・ センターの機能を一層発揮し、地域（3市1町）の特別支援教育力が向上するような協働体制を工夫する。

担当	具体的方策	今年度の取組と次年度に向けて
研修部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「いきジョイ（校内研究）」に全校で取り組み、高等部の自立活動の時間の指導の授業について職員全員で共に考え、学び合う中で、専門性の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度に引き続き、「教師と子ども、みんなで学び合い、育ち合う自立活動」をテーマに、チームいきいき、チームエンジョイ、チーム東名古屋の3チームに分かれて、学校全体で高等部の自立活動の授業（時間の指導）について共に考える研究を進めた。ワークショップ型で展開する中で、昨年度に比べて、グループ内での活発な意見交換が増えたり、教員自身の気付きやそれを授業に生かそうとする意識が高まったりするなど、教員の学びを深めることができた。次年度も、全教員で共に考え、課題を解決し、学びを促進できるとよい。</li> </ul>
教育工学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内ホームページを整備し、校内の連携を支援する。また、学校ホームページを利用して校外への情報提供を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の意見を積極的に取り入れながら、動画配信などの新しいエリアを開設したり、既存のエリアの更新及び改善を続けたりすることで、ホームページを情報発信の場として充実させることができた。今後も更新を続けていくとともに、分かりやすい変化を加えていき、魅力的な「生きているホームページ」を目指して進めていく。</li> </ul>
総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員室内のアレンジャーやロッカー等の整理整頓を行い、物の位置や表示等を改善することにより、職員の仕事の効率化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員用アレンジャーの整理を行い、表示を明示した。また、みよしネット上で確認できるようにした。職員室内のロッカーや印刷室の棚の整理整頓は、年度内に行う予定で進めている。次年度は、より一層の職員室内の整理整頓を行い、職員の導線を考えた物の位置や表示を行うことにより教職員の仕事の効率化を図る。</li> </ul>

教育支援部	<p>&lt;校内サポート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の支援において、外部の相談資源の活用を広げ、情報を共有することにより、多様な相談への校内の対応力をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談会は、専門家からのアドバイスを聞く場として活用できた。また、教育支援だよりや部会等で相談会の周知を図ることにより、関係する教員の参加が増えてきている。支援会議やサポート会は、25回実施し、昨年に比べて増えている。アンケート（4段階評価）では、評価4（75%）、評価3（25%）という結果であった。SC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）の活用については、引き続き周知が必要であるが、外部の相談資源の活用は広がってきている。今後は、校内支援について活動内容の整理を行っていききたい。</li> </ul>
	<p>&lt;校外サポート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校・高等学校や市町のニーズに応じたサポートや情報発信を進め、地域と共に特別支援教育力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回相談等で、各小中学校のニーズに合わせて支援方法や教材について情報提供をした。具体的に教材や支援方法を伝えることで、とても参考になった、などの感想を聞くことができた。今年は、授業参観を希望するケースが数件あった。アンケートには、実践に生かしていきたい、自立活動や生活単元学習について知りたいなどの意見があった。今後も、ニーズに合わせた情報提供の仕方を工夫していきたい。</li> </ul>
生活指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震などの緊急時における対策や行動について確認し、児童生徒や職員がより安全に行動や避難ができるようにする。</li> <li>・スクールバスの安全で適正な運行に努める。また、自力通学生の安全やマナーについての実態を把握し、実情に合わせた指導を行う。</li> <li>・常に児童生徒の様子に気を配り、いじめや不適応行動の防止に努めるとともに、問題事案に適切に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で、例年の形では緊急時における訓練は実施できなかったが、感染症への対策も考え、新たな形で避難訓練と引き渡し訓練を実施することができた。今回の反省を踏まえ次年度へつなげていきたい。</li> <li>・スクールバスの増便、コース変更、感染症対策について対応した。スクールバスの利用状況を検証し、来年度の新たなルール作りに生かしていきたい。自力通学生の安全やマナー指導については、計画どおり進めることができた。</li> <li>・生徒指導上の大きな問題は生じなかった。引き続き学年職員との情報共有や意見交換を深めながら取り組んでいきたい。</li> </ul>